

柳瀬・空堀合流部第二期計画の進捗状況ヒヤリング結果報告

2013年3月25日
柳瀬川流域ネットワーク
事務局 鈴木昭三

実施概要

上記の件については、すでに昨年11月26日に第一回のヒヤリングを行い、その結果を報告しておりますが、今回はその後の進捗と今後の予定を把握する目的で実施しました。

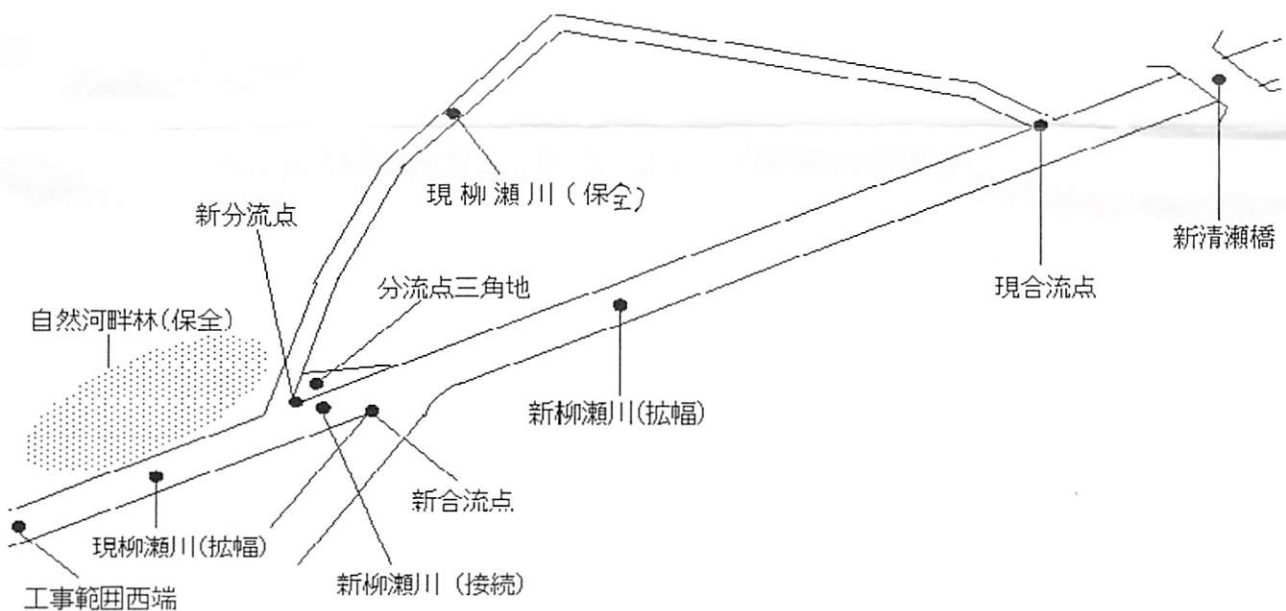
日時： 2013年3月22日 10:00-11:20
場所： 都北多摩北部建設事務所 工事二課
訪問者： 宮沢とよ美、鈴木昭三

設計の基本方針は前回と変わらない。実施設計は最終段階にきているが、まだ終わっていないので確定的な話ができないとのことでしたが、われわれが重視している事項について前回より一段具体化した話を聞き、更に植栽や修景について予備的な意見交換を行うことができましたので、その結果について報告いたします。

1. 報告に当たって

第二期計画は、計画の内容が複雑であり、場所名についても、これまでに統一案が示されたにも関わらず、守られておりません。この報告では、誤解を避け、説明を分かりやすくするために、予め場所名を次の図のように仮設定します。

場所名仮設定図



また、説明・質疑は制作途中の図面等を用いて行われ、言葉は省略される場合が多かったのですが、そのままでは分かりにくいので、この報告では、言葉を補って記述します。

2. 新分流点先端の形状

説明：この部分の形状決定に苦心していることは、前回申し上げた通りです。現柳瀬川（拡幅）から流下してくる水流が新分流点の護岸に当って盛り上がり、乱れや護岸の損傷が生ずる恐れがあるため、これを防止できる形状を求めて、合計26パターンについて模型実験を行いました。その結果、最近の新幹線車両の先頭部のような形状を採用することにしました。先の方は高水時は水中に沈むくらいの高さで、途中から高さを増して護岸と同じ高さになります。詳細な設計はこれからですが、景観も考慮して、板状の天然石を積み重ねる予定です。

3. 新分流点付近の左岸の構造

説明：分流点付近の現在の左岸は、高水敷状の土地が張り出しており、このままでは、全体として河積（流れの断面積）が足りません。現在陸地となっている部分はそのまま残しますが、水際部より先は少し掘り下げて、河積を確保します。掘り下げ部の外面は箆マットで保護する予定です。

掘り下げ部の底面は砂礫で埋まったり、再び掘れたりするかも知れませんが、当分は、川の活動に任せて様子を見るつもりです。

4. 新柳瀬川接続部に設ける低い堰

説明：前回にお話したように、接続部の入口近くに設ける低い堰は、水流の乱れを防ぐため、ゆっくり盛り上がって再びゆっくり下がる形状にします。材料は、コンクリートのみでは弱いので、景観も顧慮して、石材を使う予定です。

5. 新柳瀬川接続部に設ける落差工

説明：落差が約1.3mあり、コンクリートスロープ型としますが、中央に魚道を設けることにします。魚道の方式は、緩傾斜スロープ型、ハーフコーン型などを検討中です。

コメント：魚道を設けるのは賛成です。方式は上記のどちらでもよいと思いますが、中央に設けた場合、魚は落差工の下まで行ってしまい、魚道の入口を見つけにくい事例が多いとされていますので、こうならないよう、設計での配慮をお願いします（鈴木）。

6. 現柳瀬川拡幅部の護岸と管理道路

説明：すでに申し上げているように、左岸は護岸を作らず、現在の自然河岸をそのまま維持します。右岸は拡幅のため、現護岸を一旦取り除き、新たに鋼矢板を深く根入れした基礎を作り、その上に玉石ブロックなどを用いた急傾斜護岸を設けます。

管理道路は標準的なものを設けます。管理道路のどちら側かに植栽を行う予定ですが、川側にするか住宅側にするか、樹種は何にするかなどの点は、今後関係者のご意見を伺って決めていきます。

7. 新分流点以降の現柳瀬川右岸の護岸。

左岸は、現状のままとします。右岸は、新分流点の護岸との擦り付けに必要な範囲で、現護岸を除去し、前項と同様な護岸を設けます。

8. 新分流点付近の管理道路と植栽

説明：新柳瀬川の接続部には、兩岸とも管理道路を設ける予定です。左岸については、管理道路が新分流点のところで行き止まりになるので、ここに、車がターンできる場所が必要かなと思っています。植栽を含めて、具体的な検討はこれからです。

コメント：これに対して、主として宮沢から、予備的に次のような要望をおこないました。

- ① 新分流点の陸地側には、細長い三角形の空き地ができるので、管理道路は三角形の外寄りをぐるっと回るようにしていただきたい。また、新柳瀬川側の道幅は狭く、東の住宅地側は広くして、住宅地との緩衝帯とするとともに、車のターンもここで行うようにしたい。
- ② 管理道路に囲まれたスペースには、林を作るようにしたい。桜などを植えて人が多くあつまる場所とするのではなく、エノキを中心にこの辺の雑木林に適した樹種を植えて、清瀬市が目指す“オオムラサキがいる林づくり”に寄与する林にしたい。

(以上の点については、追って、清瀬市の担当部署も加えて検討することになった。)

9. 今後の予定について

説明：基本的には、これまでに、懇談会等で示したスケジュールに従って進めており、概ねつぎのようになります。

新柳瀬川接続部の残りの工事： 25年度

新分流点付近の工事 : 25年度

現柳瀬川拡幅部の工事 : 25～26年度

現柳瀬川の放流点付近の工事： 26～27年度（魚道の新設を含む）

以上